

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2012年6月号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第5回仙台国際音楽コンクール【開催日程】ヴァイオリン部門:2013.5.25(土)~6.9(日) ピアノ部門:2013.6.16(日)~30(日)
【出場申込締切】2012.11.15(木) 当日消印有効

第4回仙台国際音楽コンクール優勝記念演奏会公演レポート

若き才能の飛翔…仙台から世界へ

道下京子(音楽評論家)



近年の国際コンクールでは、中国を凌いで韓国系の演奏家が世界中で優勝や上位入賞を果たしている。2010年に開催された第4回仙台国際音楽コンクールでも、その傾向は顕著であった。その時のヴァイオリン部門の優勝者クララ・ジュミ・カンも、韓国人の両親(ともにオペラ歌手)をもつ韓国系ドイツ人。仙台のコンクールの3か月後には、アメリカのインディアナポリス国際ヴァイオリンコンクールで優勝。このコンクールは、アメリカで最も権威のあるコンクールであり、世界的にも難関のひとつに数えられている。日本人では過去に竹澤恭子が優勝している。

仙台国際音楽コンクールでは、副賞のひとつとして、コンクール優勝者には仙台と東京での優勝記念演奏会が用意されている。昨年に開催されるはずであったが、東日本大震災のために、カンは仙台での演奏を延期せざるを得なかった。ほぼ1年後にあたる2012年6月2日、仙台国際音楽コンクールの会場でもある仙台市青年文化センターに現われたカンは、以前にも増してさらにスケールの大きな演奏で聴衆に存在感をアピールした。このコ

ンクールの課題曲はすべてコンチェルト!それゆえに、独奏曲を聴くことのできるこの副賞リサイタルは、ソリストの力量を間近に知ることのできる絶好の機会である。

卓越した演奏技巧は、彼女の自信に満ちた揺るぎない演奏解釈の根幹をなす。奇を衒うような極端な個性の表明はなく、優れて正統的なヴァイオリンであった。音の色彩は実に豊かであるが、彼女の筆致は決して厚塗りでなく、その動きは実にデリケートで、同時に情熱的である。それは、作品に没入し燃え尽きてしまうような情熱ではなく、直向きな感情がダイレクトに伝わって来るものである。堂々と舞台に臨むその姿には、大器の風格が感じられ、作品との対話を通して自らの言葉で率直に語る彼女の演奏は、自然で澁みない。今後、細やかな表現にさらに磨きかけられれば、より深い世界を極めることができるであろう。

プログラム冒頭は、予定されていたバッハ《無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ》第1番から、モーツァルト《ヴァイオリン・ソナタ》K301に変更された。明るくエネルギーに「快奏」させるのではなく、伸びやかな情感とともに気品を漂わせていた。しっとりとした音で、ハーモニーの変化を巧みに捉えた音の色彩感の移ろいもさり気なく表わし、聴く者の心に自然に溶け込む。それに対して、ベートーヴェン《ヴァイオリン・ソナタ》第7番では、アグレッシブな演奏に転じ、自らの感情と自己主張を躊躇うことなく奔放に弾いた。とりわけ落差の激しいデナームは、殊更にドラマティックな悲愴感を醸し出している。また、スケルツォ楽章における大胆なアクセントと伸びやかに奏でられる息の長いフレージングとのコントラストは、豊かな精彩をもたらす。終楽章ではカミも見られたが、緊迫感あふれるベートーヴェンであった。



第4回仙台国際音楽コンクール優勝記念演奏会
クララ・ジュミ・カン ヴァイオリンリサイタル概要
ピアノ:津田裕也

2012年6月2日(土)14時開演
会場:仙台市青年文化センター コンサートホール

演奏曲目

モーツァルト:ヴァイオリン・ソナタ長調 K301
ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 op.30-2
ラヴェル:ヴァイオリン・ソナタ
ヴェニャフスキ:伝説曲 op.17
ヴェニャフスキ:華麗なポロネーズ 第2番 イ長調 op.21
ヴェニャフスキ:華麗なポロネーズ 第1番 二長調 op.4

アンコール
エルガー:気まぐれな女
クライスラー:中国の太鼓

休憩後、まずはラヴェル《ヴァイオリン・ソナタ》。カンは、透明感あふれる音で作品を端正にまとめ上げた。第2楽章「ブルース」でも、リズムの鮮やかさは然ることながら、ヴァイオリンの艶やかな音色も、音楽にしなやかな生の鼓動を与える。圧巻は、何といてもフィナーレだ。音のエネルギーは狭い音程内に凝縮され、極度の緊張を生み出し、凄まじい推進力で音楽を迸らせる。そして、ヴェニャフスキの3作品では、堂に入ったヴァイオリンを披露した。ほの暗い情感と中間部の劇的な歌い回し、そして精妙な弱奏の冴える《伝説曲》作品17、《華麗なポロネーズ》第2番では、音型を活かして弾力ある跳躍を生み出し、演奏技巧の煌びやかさよりも落ち着いた風格を際立たせる。第1番では、技巧を凝らしていると感じさせない秀逸したメカニックを惜しみなく披露した。

ピアノ共演は第3回の優勝者、仙台市出身の津田裕也。常にヴァイオリンを意識し、互いの音の距離をコントロールし、寄り添うような演奏が印象的であるが、例えばベートーヴェンやラヴェルではもう少し競り合うような一面があってもよかったと思う。



■お問い合わせ先/公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: http://www.simc.jp/

第5回仙台国際音楽コンクール 【開催日程】 ヴァイオリン部門:2013.5.25(土)~6.9(日) ピアノ部門:2013.6.16(日)~30(日)

クララ・ジュミ・カンのリサイタルの翌日、同じ会場にヴァディム・ホロデンコが登場した。彼もまた、仙台のコンクールの後、シューベルト国際コンクールで優勝し、国際的なキャリアを重ねている。昨年の第4回仙台国際音楽コンクール優勝記念演奏会は、東京公演(浜離宮朝日ホール)のみが行なわれた。しかし、ホロデンコは、常盤木学園高等学校へと場所を移して、仙台市民に本来のプログラムを披露していたのだ。それと同じ曲目を、筆者は東京で拝聴した。メネルとプロコフィエフの作品の中でも、ライブではあまり演奏されない曲目ではあったが、ピアノ好きにはたまらないプログラム！ 理知的なピアニストだと思う。ロシア系のピアニストに往々にして見られる壮大で迫力ある技巧を誇示することなく、絶妙なテクニックを駆使して作品の内面の陰影を緻密に引き出す演奏であった。特に、メネル作品の音の翳りやプロコフィエフ作品における抑り出すような律動性は、聴く者に強烈な印象を残した。



1年を経て、青年文化センターに戻ってきたホロデンコ。この日のために彼が用意したのは、前半にドイツもの、後半にはロシアものによるプログラム。バッハ《4つのデュエット》BWV802~805は、規模は小さいものの難解な作品である。ホロデンコは音の組み立てを緻密に読み解き、極めて密度の高い演奏を聴かせてくれた。続く《イタリア協奏曲》での、とりわけ第3楽章におけるチェンバロにも似た響きの創出は、このピアニストの色彩感や音色の充実ぶりを示している。全曲を通して統一感のあるテンポの構成によって、壮大なドラマを生み出したベートーヴェン《ピアノ・ソナタ「熱情」》。第2楽章の主旋律に憂いを含ませるあたりは、なかなか心憎い。フィナーレでは、段階的に重みをかけ、音圧を増幅させ圧倒的なクライマックスを形成する。高音における右手の薬指と小指にあたる音を聴いていると、彼が途轍もないほどの強い指の持ち主であることがわかる。

前半では硬さも見られたが、ホロデンコの魅力は後半において遺憾なく発揮された。ラフマニノフ《コレリリの主題による変奏曲》では、20もの変奏の隅々まで重いリズム感を堪能させる。ホロデンコのピアノには、いつもどこかに翳りを感じさせるが、このラフマニノフにおいても、この翳りが深い情感を生み出した。彼がピアノに向かう姿は独特で、上半身をあまり動かさず、いくぶん前屈みで腕や手の脱力を得ている。しかし、ストラヴィンスキー「《ペトルーシュカ》からの3楽章》では、珍しく身体を動かす場面も見られた。彼の強靱な指から紡ぎ出される変幻自在な音色は、オーケストラのような鮮烈な色彩をもたらし、鋭敏なリズム感とともに音楽に生氣を与えていた。音の一つひとつの減衰に至るまで神経を遣い、音の遠近感を演出する。また、プログラム全体を通して、低音部(左手)の音の創出が巧みで、多様な音楽表現を実現するのに貢献した。ちなみに、この日のアンコールはクルトフ《左手のための前奏曲》。

仙台国際音楽コンクールは、創設からわずか11年という短期間のうちに、すでに国際的に活躍している若い逸材が世界中から集うコンクールへと成長した。その背景には、定評あるホスピタリティや運営力、そして他のコンクールには見られない様々な企画も魅力として挙げられる。先のエリザベト王妃国際コンクールで優勝したアンドレイ・バラノフは、この仙台のコンクールで2度入賞している。ホロデンコも第3回仙台国際音楽コンクール優勝記念演奏会でアリョーナ・バーエワの伴奏者として2008年に来日し、その際に第4回への出場を決意したという。他にも再挑戦するアーティストも少なくない。2日間にわたって優勝者二人の演奏を聴き、若手の登竜門となったこのコンクールから今後ますます素晴らしい才能が輩出され、仙台が世界への開かれた窓となっていくことを実感した。

第4回仙台国際音楽コンクール優勝記念演奏会 ヴァディム・ホロデンコ ピアノリサイタル概要

2012年6月3日(日)14時開演
会場:仙台市青年文化センター コンサートホール

演奏曲目

J.S.バッハ:4つのデュエット BWV802-805

J.S.バッハ:イタリア協奏曲 BWV971

ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第23番 短調 op.57「熱情」

ラフマニノフ:コレリリの主題による変奏曲 op.42

ストラヴィンスキー:ペトルーシュカからの3楽章

アンコール

クルトフ:左手のための前奏曲

第5回仙台国際音楽コンクール＜ボランティア活動説明会＞開催レポート

事務局では、第5回仙台国際音楽コンクールをサポートして下さる市民ボランティアを募集しています。6/8、9の2日間にわたって活動説明会を行い、多くの市民の方々にご来場いただきました。

説明会の前半は、事務局から仙台国際コンクールとボランティア活動全体について、過去のコンクールの映像を交えて説明を行いました。後半は部門ごとにブースに分かれ、第4回コンクールで実際に活動されたボランティアの方々に体験談などを語っていただきました。多岐にわたるボランティア活動に長年携わってこられた経験者の方々の示唆に富んだお話に、参加された方々は熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

ご夫婦で参加されている方、留学生の方、仙台に引越してきたばかりという方など、様々な方々に興味を持っていただき、説明会終了後には続々と申込みが寄せられました。

※第5回仙台国際音楽コンクールボランティア 申込締切は2012年6月29日(金)＜必着＞です！



仙台国際音楽コンクールは、
Facebookで最新情報を配信しています！
下記アドレスにアクセスして、是非ご覧ください。
<http://www.facebook.com/SendaiInternationalMusicCompetition>



そして是非、「いいね！」をクリックしてみてください！



■お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: <http://www.simc.jp/>